

九重山の火山活動解説資料（平成 20 年 10 月）

福岡管区気象台

火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 10 月の活動概況

・ 噴煙など表面現象の状況（図 2）

噴煙は白色、極めて少量で高さは概ね 300m で推移し、特段の変化はありませんでした。

・ 地震、微動活動（図 2、図 4）

火山性地震の月回数は 6 回（9 月：9 回）と少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動（図 1、図 3）

GPS 連続観測では、長者原－坊ガツル及び長者原－牧ノ戸峠の基線長に、1995 年から 1996 年にかけての噴火後の火山ガスの放出に伴うと考えられる、長期的な縮みの傾向が見られます。

・ 熱観測（図 6、図 7）

7 日に実施した現地観測では、熱異常域の広がり等の変化は認められませんでした。

・ 全磁力観測（図 5）

全磁力繰返し観測では、硫黄山の A、B、C 領域の北側で全磁力が減少、南側で増加し、火山体内部の温度低下傾向が認められました。

*現地観測を 6 日から 9 日にかけて実施しました。

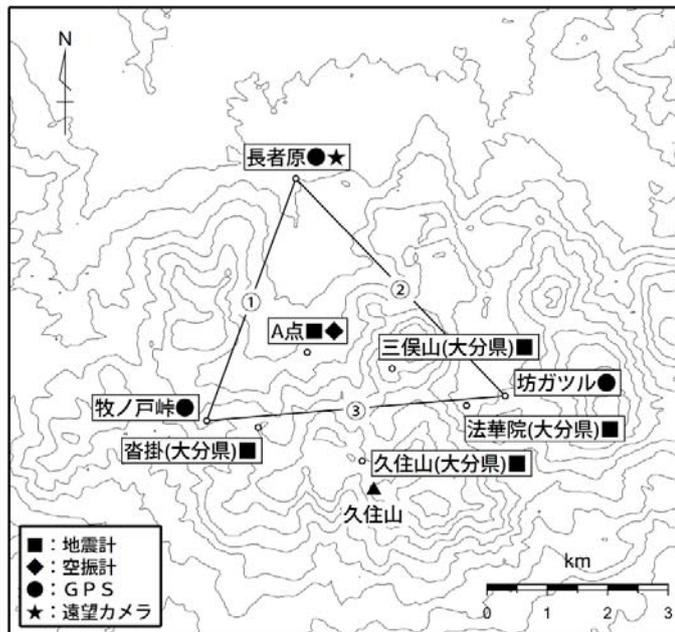


図 1 九重山 観測点配置図

※この資料作成に当たっては、気象庁のデータその他、防災科学技術研究所、大分県のデータを使用しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区気象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成 20 年 11 月分)は平成 20 年 12 月 5 日に発表予定です。

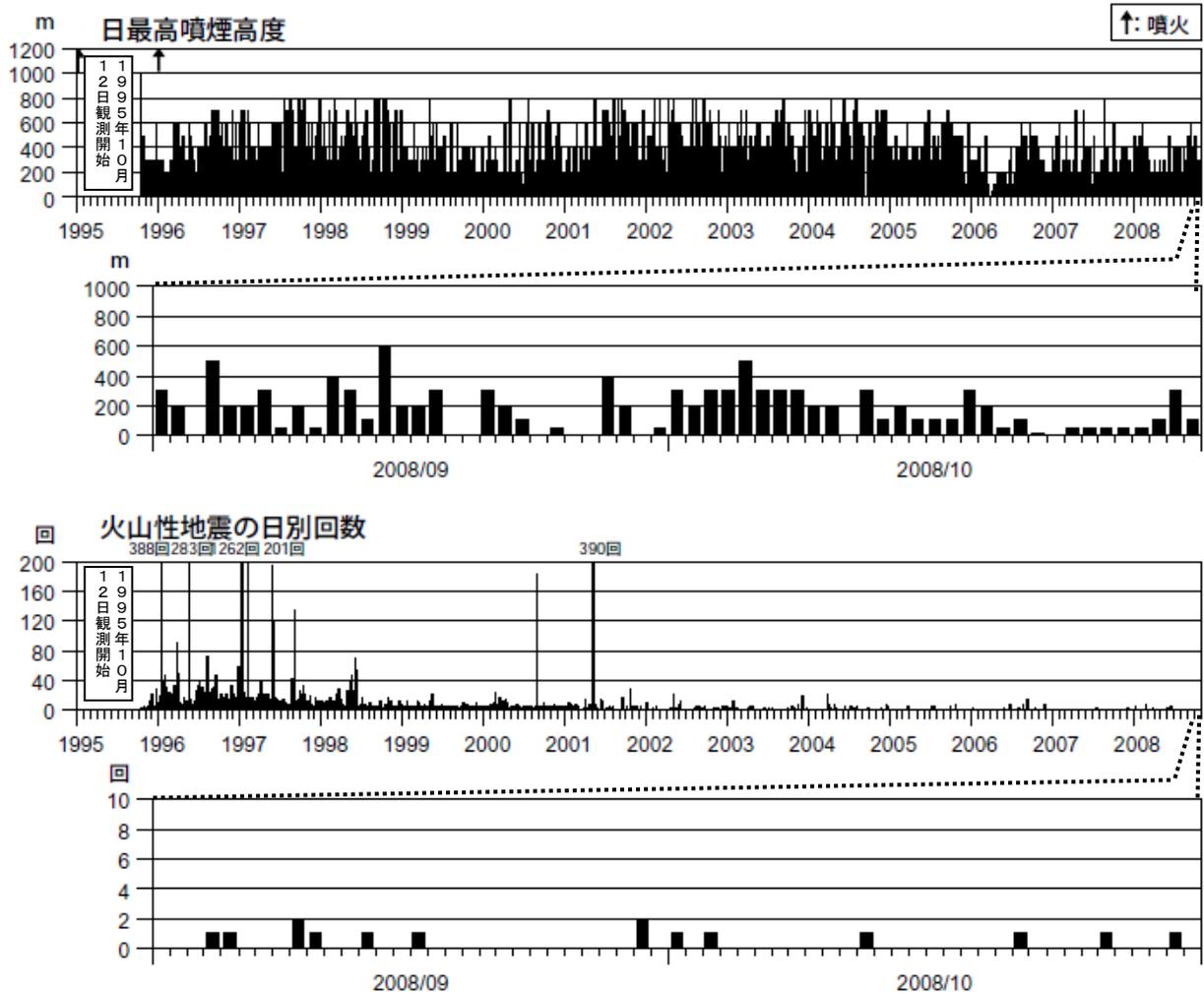


図 2 九重山 火山活動経過図(1995 年 10 月 12 日～2008 年 10 月)

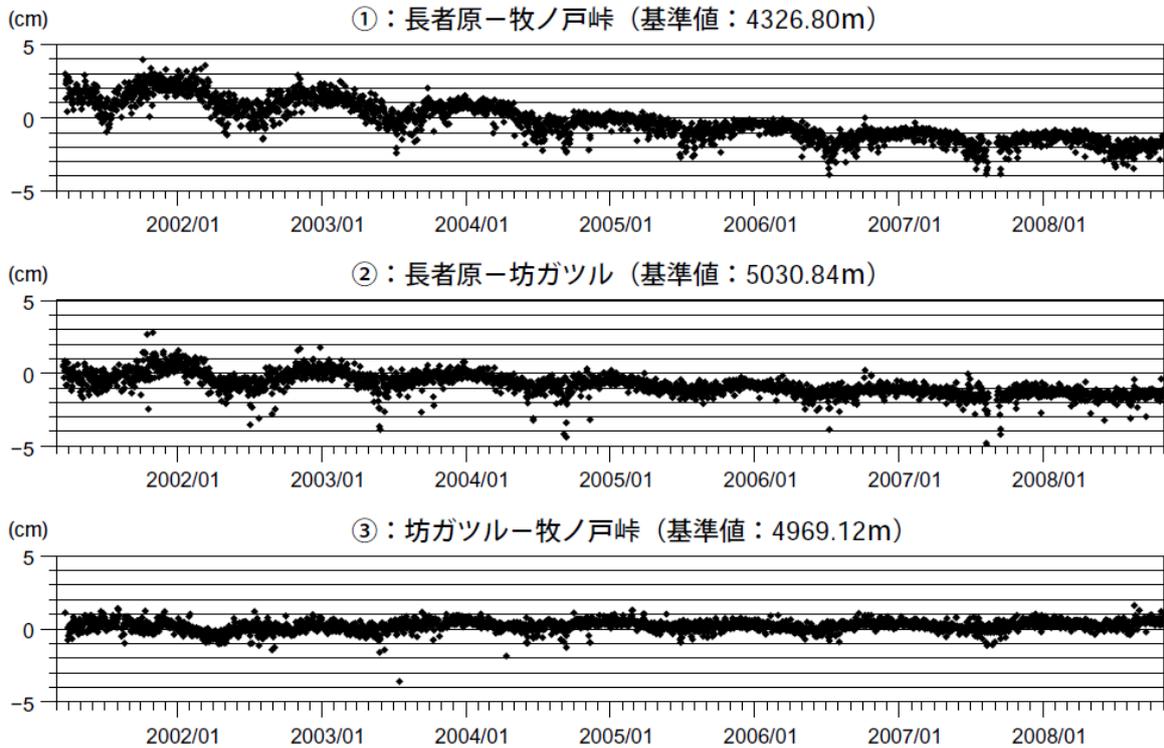


図 3 九重山 GPS 連続観測による基線長変化(2001 年 3 月～2008 年 10 月)

GPS による連続観測では、長者原-坊ガツル及び長者原-牧ノ戸峠の基線長に、1995 年から 1996 年にかけての噴火後の火山ガスの放出に伴うと考えられる長期的な縮みの傾向が見られます。

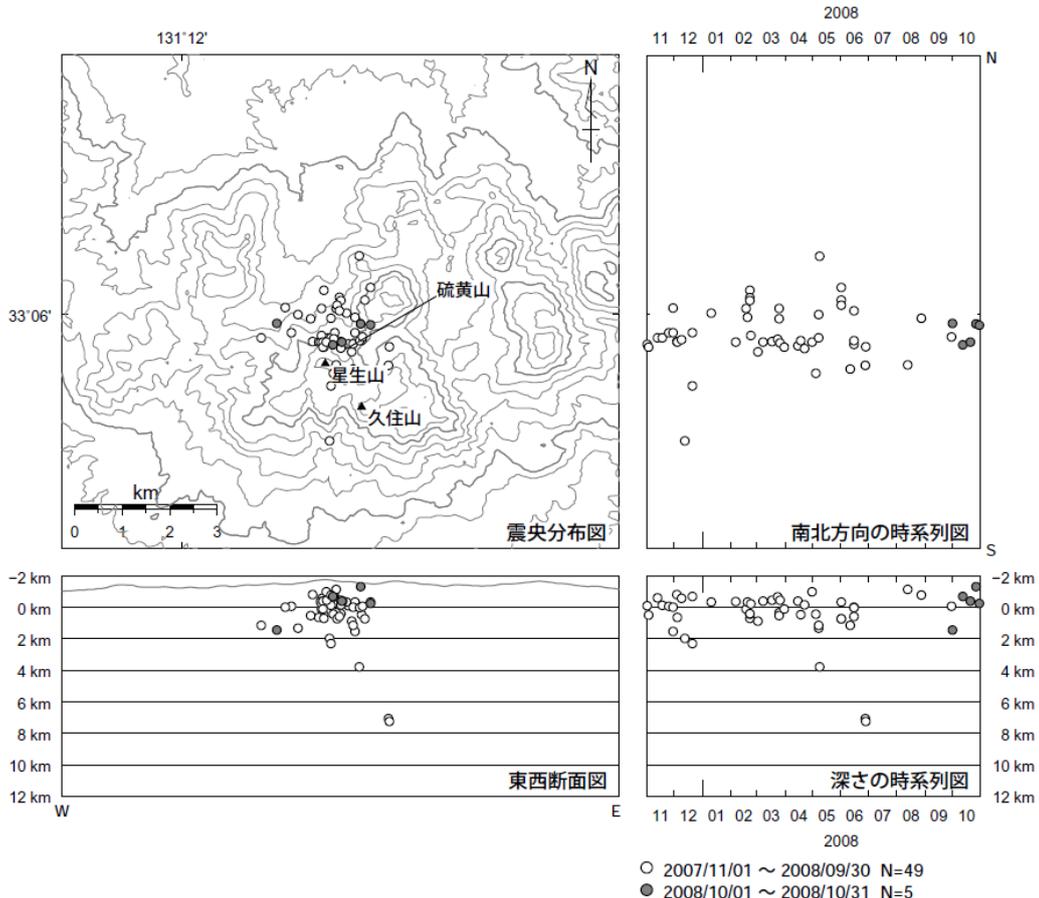


図 4※ 九重山 震源分布図(2007 年 11 月～2008 年 10 月)
今期間、震源は山体付近の浅いところに分布しました。

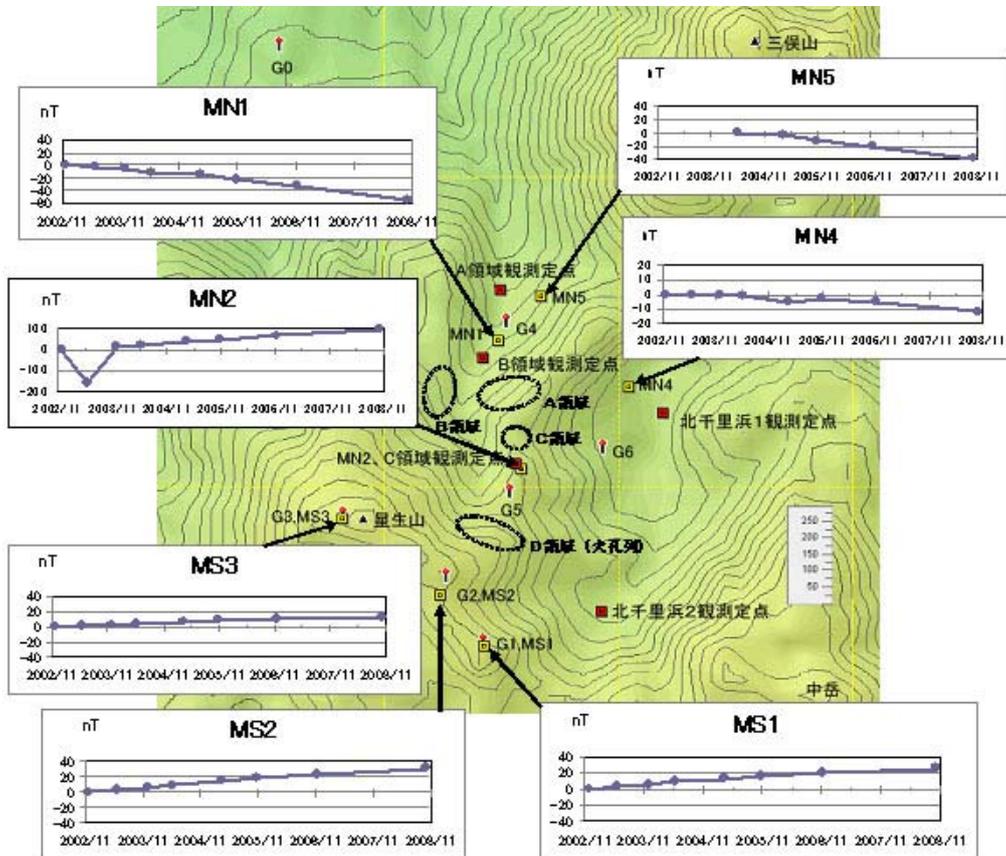
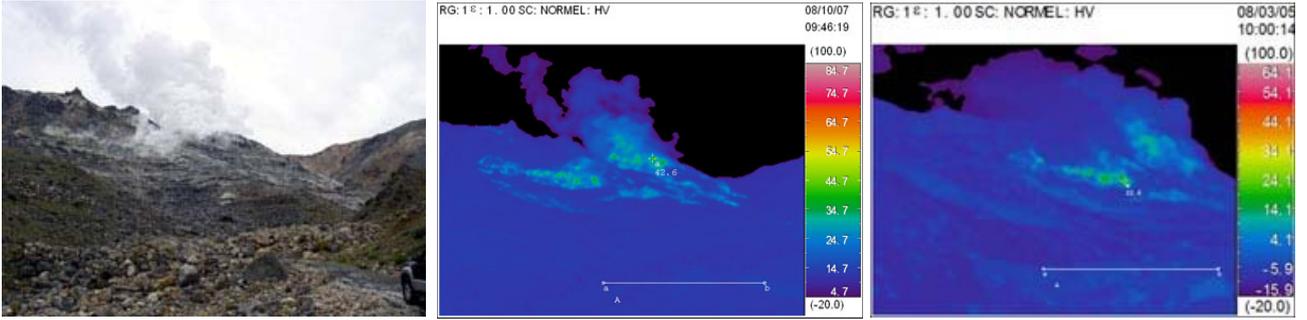
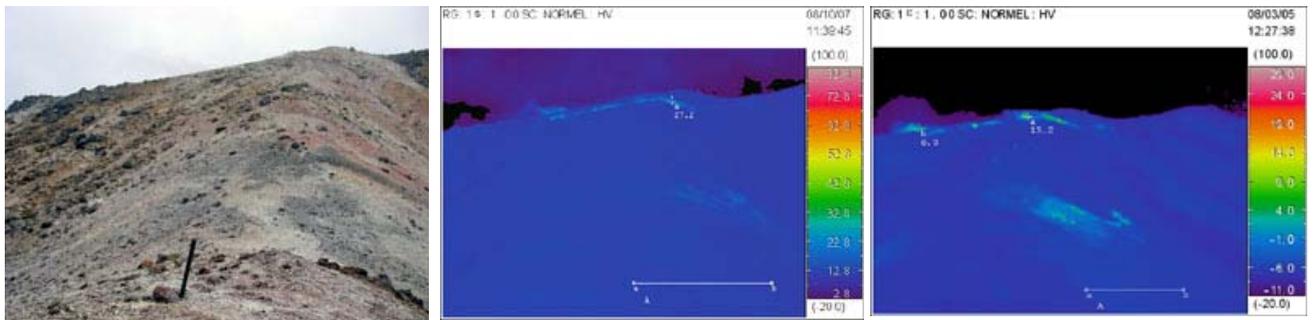


図 5 九重山 全磁力繰り返し観測結果
硫黄山の A、B、C 領域の北側で全磁力が減少、南側で増加し、火山体内部の温度低下傾向が認められました。



A領域定点よりA領域を撮影

左：可視画像（10月7日撮影） 中：赤外熱画像（10月7日撮影） 右：赤外熱画像（3月5日撮影）
 ・噴気は白色で高さは30mでした。また、熱異常域の広がり等の変化はありませんでした。



C領域定点よりD領域のb火孔列を撮影

左：可視画像（10月7日撮影） 中：赤外熱画像（10月7日撮影） 右：赤外熱画像（3月5日撮影）
 ・噴気は白色で高さは5mでした。また、熱異常域の広がり等の変化はありませんでした。

図6 九重山 噴気地帯の熱観測結果

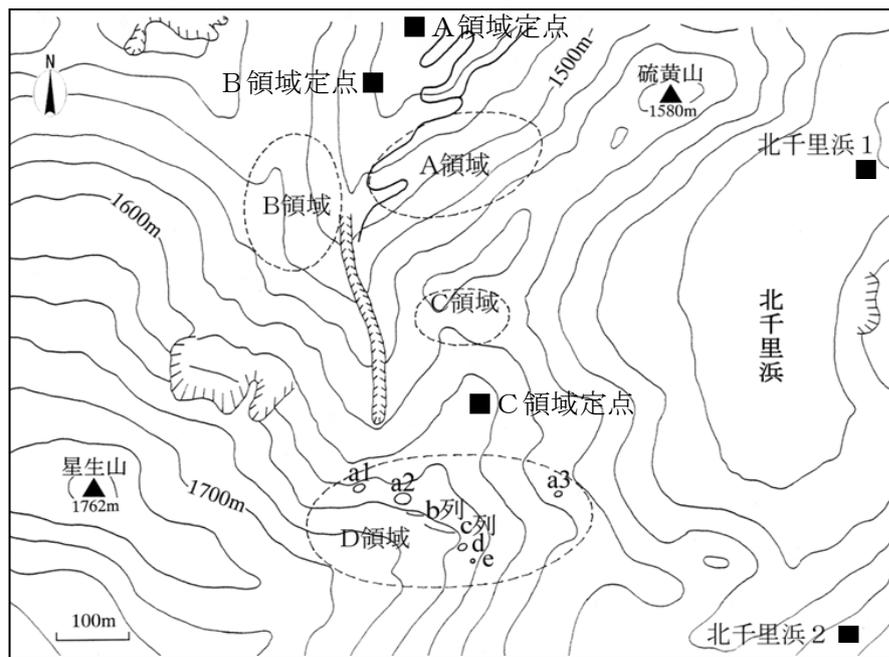


図7 九重山 熱観測点位置図